

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491300091	事業の開始年月日	2012年8月1日	
		指定年月日	2012年8月1日	
法人名	社会福祉法人豊明会			
事業所名	グループホーム藤の木 ユニット名： 栗駒			
所在地	(〒 989-5164 ) 宮城県栗原市金成金生11			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2022年9月22日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

藤の木は、自然が豊かな場所に設置されている為、四季を感じながら生活を送られています。田園風景は、利用者様にとってなじみの景色となっており、自宅周辺にいると錯覚をされる利用者様もおります。毎月、季節に合わせた行事を開催。食事は、季節の料理、郷土料理、利用者様の嗜好を伺い献立に取り入れています。食事形態も一人ひとり食べやすい形態を工夫しながら提供し、楽しく食事が出来る様な工夫しています。ご家族様には、毎月写真とお手紙、藤の木だよりを郵送し、日頃の利用者様の様子が分かるようにしています。現在新型コロナウイルス流行の為外出は控えて頂いておりますが、リモート面会、窓越しの面会を行っております。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年10月26日	評価機関 評価決定日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の理念】</p> <p>利用者様・家族様の良き理解者となり、気持ちに寄り添った介護を目指します。利用者の自由意思を尊重し、のんびり、穏やかに笑顔のある家庭的な暮らしを提供します。</p> <p>【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等</p> <p>ホームは、国道4号線から少し入ったのどかな田園風景が広がる一角に、社会福祉法人豊明会が2012年8月に開所した、木造平屋建て2ユニットである。利用者は四季折々の田園風景を楽しみながら、一人ひとりのペースに合わせた生活をしている。敷地内には同法人の障がい児多機能型事業所「きぼう」とグループホーム「のぞみ」があり、災害時等の協力体制や「きぼう」の子ども達と交流を行っている。母体法人は「いくつになっても、その人らしく、暮らしのお手伝い」をモットーに、宮城県栗原市内で高齢者福祉、障がい者福祉、障がい児福祉事業を運営し、地域福祉の充実を目指している。</p> <p>【事業所の優れている点・工夫点】</p> <p>管理者と職員は理念を共有し、毎月の全体会議で目標を決めて理念が実践に活かせるよう取り組んでいる。利用者の残存能力を把握し、家事や庭仕事、花を生けるなど自宅で担っていた役割を事業所でも継続できるよう支援している。コロナ禍での面会は、窓越しやリモート方式を取入れて行っている。毎月郵送している「藤の木だより」は全面カラー印刷で、事業所内の行事や利用者それぞれの様子や表情がわかる写真を多く掲載し、家族から喜ばれている。運営推進会議は2ヶ月ごとに「身体拘束等の適正化のための対策委員会」も兼ねて開催している。コロナ感染予防対策を徹底し、事業所内で会議を開催しており、管理者からサービス提供状況などを報告し、委員から質問や意見交換が活発に行われている。民生委員から高齢者交流会などの情報や駐在所所長からは行方不明時の対応についてのアドバイスもあり、事業所の運営やケアに活かされている。</p>
---

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホーム藤の木
ユニット名	栗駒

**V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム藤の木 ）「ユニット名:栗駒」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	藤の木の運営理念、法人の経営理念を事務室に掲示し、理念を共有している。会議にて理念の確認を行い理念に添ったケアを行う事が出来る様に目標を決めている。	事業所の理念は、開所時に職員みんなの話し合いで決めたものである。毎月の全体会議で目標を決め、理念がケアに活かされているか振り返りを行っている。法人の経営理念と事業所の運営理念を事務室に掲示し、いつでも確認できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて地域の行事、地域の敬老会、お茶っこ会などに参加は見合わせている。	町内会には加入していないが、敬老会やお茶会などの地域行事のお誘いや回覧板も届く。コロナ禍以前には、避難訓練時に地域住民の参加もあり、歌や踊りなどのボランティアの来訪もあった。現在、利用者は感染症予防対策を徹底し、隣接する障がい児多機能施設「きぼう」の子ども達と一緒に、ハロウィンを楽しんだりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にて地域の方々に認知症の人の理解や支援の方法を公表する場がなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催をしている。要望などが出された際には、話し合いを行っている。	運営推進会議は各ユニットから家族代表、区長、民生委員、市職員、地域包括職員、駐在所所長、管理者が参加し、2ヶ月に1回開催し、同時に「身体拘束の適正化のための対策委員会」も開催している。管理者から利用者の状況や活動状況などを報告し、参加者と意見交換が活発に行われ運営やケアに活かされている。駐在所所長から、高齢者の事故や対策などのアドバイスがあった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村の職員に参加して頂く事で話し合う機会を設けている。	運営推進会議に市職員が参加しており、事業所との連携が図られている。都度、介護保険制度などについて相談している。地域包括職員には困難事例などを相談している。市からはコロナに関する情報や研修会の案内があり、認知症の研修にはオンライン方式で参加した。また、連携を図りながら認知症サポーター養成講座を開催することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の行動を常に把握する事で、日中は玄関の鍵を掛けることなく過ごして頂いている。全職員は鍵を掛ける事で起こりうる事態について理解をしている。また、年に2回施設内部研修で身体拘束についての研修を行っている。手続きをふみ、現在夜間につき着用中の方が一人いる。	身体拘束廃止の適正化等のための指針を作成している。年2回内部研修を実施し、2ヶ月に1回、委員会を開催し、身体拘束を行わないケアに努めている。外出要望のある利用者には、職員と一緒に散歩などしている。日中は施錠せず、人感センサー（チャイム）をユニットの出入口に使用している。施錠は19:00から翌朝8:00までである。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内部研修を年2回行い、全職員が学ぶことで、虐待防止に努めている。	高齢者虐待防止法等について年2回内部研修を実施している。全体会議の中で、不適切な言葉遣いやケア中に気づいたことを話し合い、職員同士助け合うことで虐待防止に努めている。職員がいつでもユニットリーダーや管理者、法人の高齢者部門の管理者に相談できる体制が整えられている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	施設内部研修にて権利擁護について学んでいる。県社協のまもりーぶ利用を申し込み中の方が一人いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にご家族様へ十分な説明を行い、理解を得た上で契約を行っている。又、利用料金等で改定が行われる際には文章等にて事前に通知を行っている。来所時にはその都度説明を行い理解をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一回満足度調査を実施し運営に反映している。また、来所時には、意見や要望がないか直接聞いている。意見や要望があった際には、職員会議にて全職員で共有し、改善を行っている。	家族会はないが、運営推進会議に各ユニットの家族代表が出席しており、要望や意見を聞いている。面会時や電話の時も意見・要望を聞くように努めている。家族からの要望や意見は、全体会議の際に職員間で情報共有している。年1回、家族アンケートを実施し、集計したものを玄関に掲示している。毎月配布している「藤の木だより」が、利用者の様子が写真入りでわかりやすいと、家族から感謝のことばがあった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度末の会議や毎月の職員会議にて職員からの意見や要望を聞き可能な限り次年度の運営に反映させている。	職員は、年2回パーソナルレポートを提出している。管理者はレポートを基に職員と面談し、自己目標を見直したりしている。毎月の全体会議やユニット会議でも職員から意見・要望を聞いている。リビングの照明が暗くケアがしづらいとの意見が出され、明るい照明に変えたことで改善に繋がった。休憩する場所がないとの意見に対して、現在使われていないリビングの和室を活用することにし、職場環境改善に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は法人職員が意欲を持って働けるように統一内部研修を開催しているがコロナ過により中止している。また、年2回パーソナルレポートにて個別に目標や実績を確認し、職員の要望も上げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の希望、実力にあった研修に参加が出来る。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会や交流会に参加する事で、ネットワーク作りを行っている。	同法人の他のグループホームとは、主に電話で相談や情報交換を行っている。法人で開催する会議には、オンライン方式で参加している。医療機関とも連携が図られ、緊急時や看取りのこと等相談しながら取り組んでいる。宮城県認知症グループホーム協議会に加入し情報を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み時に意向を聞き、不安のないようにサービスを提供し、利用者様と職員の良好な関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時や自宅訪問時にご家族様より聞き取りを行い、ご家族様と職員の良好な関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス提供時、必要としているサービスを見極め必要に応じて臨機応変に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活して行く中で利用者様と職員と言う枠を作らず、利用者間に決定権をゆだね共に生活する者としての関係を築いている。職員は作業をして頂いた時には感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅での関係を崩すことなく、面会を大切に、現在コロナ過においても窓越し面会やリモート面会などを行って、ご家族様との関係を維持している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様を通し、馴染みの方との関係を継続できるように働きかけているが、コロナ過により地域の行事に出掛ける機会が途切れるてしまい、付き合いを継続できるように支援を行っていない。	コロナ禍で以前のように地域行事に参加ができない。家族との面会は、居室の窓越しやリモートで行っている。感染予防を徹底し、月に1回、幼馴染の家にお茶飲みに出かけられるよう支援をしたり、ユニット間を自由に行き来し隣のユニットに居る同級生へ会いに行けるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性などをみて馴染んでいただけのような関係性となれるように職員が支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも、必要なサービスの利用に向けてフォローを行っている。退所後も電話相談など行うこともある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様にどのように暮らしたいか意向を聞き取り、可能な限り要望に応えられるように職員が情報を共有し、グループホームでもできる事は継続して行えるように支援をしている。	利用者一人ひとりの思いに耳を傾け、家族から生活歴を聞くなど、どんな暮らしがしたいのか把握に努めている。家事や庭仕事、花を生けるなど、好きなことや得意なことを担ってもらっている。新聞を読む、病院の帰りにおやつを買う、白髪染めをするなど、利用者の希望に沿えるよう支援している。寝たきりの人には好きな音楽を聴いてもらったり、意向の把握が困難な人には表情や身振りから把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は、利用者様の生活歴や生活環境の把握に努め、情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、利用者様の生活歴や生活環境の把握に努め、情報の共有を行っている。利用者様が皆同じ過ごし方にならないよう、その方に合った過ごし方を模索し、工夫している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の介護計画書を作成するにあたり、要望について聞き取りを行い会議にて話し合い計画に反映している。ご家族様の意見や要望は面会時に聞き取りを行っている。	介護計画は、利用者、家族の意見を基に短期、長期の目標を立て作成している。日常的に状態や要望を把握し、居室担当者がモニタリングを行い、ユニット会議やサービス担当者会議で計画の評価を行っている。6ヶ月毎に見直しを行い、体調の変化に応じて都度見直している。見直し後は家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアで気づいたことは個別に記録し、職員間での情報の共有を図り、より良いケアに役立てている。介護計画書の見直しができるようにしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の健康状態やご家族様の状況に応じて柔軟にサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に出掛けたり、演芸ボランティア等の慰問を受けていたが、コロナ禍により現在は回数が減っている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院の受診はご家族様の希望する病院を受診している。ご家族様に通院して頂く際には、日頃の様子について文章にまとめ、情報を提供し、共有している。	利用者、家族が希望するかかりつけ医を受診している。通院は、基本家族が付き添い、利用者の状態を文書で提供し適切な医療が受けられるよう支援している。また、家族の付き添いが困難な場合は職員が同行している。受診後は受診記録簿や日誌に記入し、薬などの申し送りはタブレットに入力して情報共有している。訪問歯科医は月1回、歯科衛生士は月2回来所し治療や口腔ケアの指導をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、ケアを行う上で気づいたことを看護師、訪問看護師に相談、報告を行う事で、利用者様が適切に通院や看護を受ける事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院した際には、入所中の様子をサマリーで提供したり、面会したり病院と電話で現在の状況や今後の見通しについて相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期になった場合について説明を行っている。終末期の入所者様については訪問診療など使用し連携を強化している。	入居時に「看取り介護に関する指針」の説明を行い、要望を確認している。重度化した場合は再度話し合い、終末期には医師の判断で家族に説明を行っている。協力医療機関、看護師との24時間体制の基、職員は家族とも情報共有し、チームで終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、定期的に応急処置についての講習を受けている。また、急変時や事故発生時のマニュアルが作成されており、マニュアルは事務所、各ユニットに掲示している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成して、年二回、日中と夜間を想定した火災時の避難訓練を実施している。その際、施設設備の点検も合わせて行っている。水害の際のマニュアルを作成し避難を速やかに行う体制作りを努めている。	火災、風水害、地震マニュアルが作成されている。避難訓練は年2回、内1回は夜間想定で実施しているが、コロナ禍で消防署員、地域住民の参加はなかった。避難訓練時に業者が、消火器、火災報知器、スプリンクラーなどの設備点検を行っている。非常食などは1週間分備蓄している。コロナ感染症予防マニュアルを作成し、職員は定期的に抗原検査を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重して声掛けを行っている。居室の入り口には個人の名前を掲げているが、利用者様の許可を頂いた方のみ掲げている。	接遇やプライバシーの研修を行い、職員は利用者の尊厳を考慮した声掛けを心がけている。呼び方は名前や苗字に「さん」付けを基本としているが、本人の希望でニックネームで呼んでいる人もいる。排泄介助や入浴介助では特にプライバシーに配慮している。居室に入室の際はノックと声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いを傾聴し、自己決定が出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースで過ごせるように意識して支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所時に利用者様のお気に入りの服を持参頂いている。散髪などは、定期的に藤の木に訪問していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめる様に季節に合った食材を使用した献立を提供している。食事の盛り付けや食器洗いを職員と一緒にしている。食事は職員も同じものを食べている。	献立は、法人の管理栄養士が作成したものを参考に各ユニットリーダーが作成し、職員が調理している。朝食のおかずのみ、業者に委託している。利用者は、食事の盛り付けや食器ふきなど出来ることを一緒に行っている。食事の形態は、6段階(ムース、さざみ、とろみなど)で提供している。利用者は、小正月の飾りの水木の団子づくりや、郷土料理のはっと、ふすべ餅、みょうがの葉焼き、誕生日のケーキをみんなで作ったり、お茶会などを開いて楽しんでいる。水分量のチェックや、月1回体重測定も行い体調管理に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事量を提供し、食事形態も食べやすいように工夫をしている。嚥下状態に衰えが見られる利用者様にはトロミ、ゼリー、ムース食など使用してカロリーや水分摂取に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所に個別に歯ブラシを用意している。毎食後に歯磨き出来る様に声掛けを行っている。毎月歯科往診をして頂いている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間や量を記録し、排泄のパターンを把握し、出来るだけトイレにて排泄が出来る様に声掛けなどの支援を行っている。	一人ひとりの排泄ターンを把握し、誘導や声掛けを行い、トイレでの排泄や自立を支援している。夜間だけ離床センサーを利用する人もいる。便秘対策として、水分補給や牛乳・乳製品、果物を取り入れるなど工夫し対応している。お腹に温シップを貼ったり、医師の処方薬や座薬を使用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に乳製品や果物を取り入れたり、毎日、軽体操を行っている。それでも便秘になる方には担当医師や看護師相談し、内服薬や坐薬を使用し便秘解消に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を実施している。利用者様の身体機能に合わせてリフト付きシャワーキャリーで入浴を行っている。又、水虫を悪化させないように入浴のない日は足浴を行っている。	入浴は週3回が基本である。本人の希望に応じて時間や湯温などを調整し、気持ちよく入浴ができるよう支援している。車椅子の人にはリフト付シャワーキャリーで入浴を行っている。状態に合わせ足浴等で清潔保持に努めている。入浴をしたがらない人には無理強いせず、タイミングを見ながら声がけし浴室に誘導するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は持参して頂き安眠できるようにホールや廊下の明かりを調整し、日中と夜間のメリハリをつけている。寝つきが良くなるよう日中は軽体操を行って頂く等の支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様一人一人の薬の副作用について理解している。処方されたお薬の説明書は個別のファイルやお薬手帳に保管をしている。また、服薬の一覧表を作製し処方の変更のあった時には情報を共有し観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞を読んだり、文字合わせや外気浴など個々の楽しみを尊重したり、居室のモップ掛けなど行って頂き張り合いや喜びのある生活の支援を行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染みの店や場所への外出、外出に出掛ける等の機会を設けていたが、コロナ過により回数が減っているが、家族様との通院時に外出などの機会はある。	例年は年間行事計画をたて、季節を楽しむ外出を車椅子の利用者と一緒に行っていたが、コロナ禍で外出の機会は減っている。お花見ドライブに出かけた時には、車から降りて記念写真を撮ったりした。コロナ禍前は家族と一緒に、通院時に外出を楽しむ人や墓参り一緒に出かけていた。感染予防を図りながら、職員が同行し墓参りに外出したりできるだけ希望に沿えるよう努めている。行きつけの美容院に行く利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かりしているお小遣いは毎月出納帳を付け、ご家族様に使用した金額の同意を頂いている。希望のある利用者様には本人様の財布を別に持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある利用者様には電話を使用して頂いている。また、希望のご家族様には個人で携帯電話を持ち込んで頂いている。コロナ過により、希望のある方にはリモート面会を行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地の良い空間を作れるよう外出時の写真や季節に合った装飾を施している。昼夜の区別がつくように夕方には薄暗くするなどの工夫を行っている。	リビングのテーブルには利用者が育てた花が飾られている。壁には季節に合わせた飾りや利用者の手作り作品、行事の写真など貼られ、居心地の良い空間になっている。見やすい時計やカレンダーは見当識に配慮されている。温・湿度は職員が管理し、換気扇で換気を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が談話をしやすいようにテーブルや席を配置するなどの工夫を行っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室にはご自宅で使用していた家具や写真などを持ち込んで頂いている。また、ご家族様との写真などを見やすい位置に飾っている。居室の入り口には本人様が分かりやすいように目印になるものを飾っている。	居室にはベッド、エアコン、加湿器、クローゼット、ナースコールが備え付けてある。利用者は馴染みの家具やテレビなどを持ち込み、家族写真や手作り作品を飾り、居心地の良い部屋で過ごしている。温・湿度管理、掃除は日勤職員が行い、衣替えなどは担当職員が利用者と一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは分かりやすいように表示し、廊下の手すりを使用しやすいように障害となるものは置かないようにしている。		

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491300091	事業の開始年月日	2012年8月1日	
		指定年月日	2012年8月1日	
法人名	社会福祉法人豊明会			
事業所名	グループホーム藤の木 ユニット： 蔵王			
所在地	(〒 989-5164 ) 宮城県栗原市金成金生 1 1			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2022年9月22日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

藤の木は、自然が豊かな場所に設置されている為、四季を感じながら生活を送られています。田園風景は、利用者様にとってなじみの景色となっており、自宅周辺にいと錯覚をされる利用者様もおります。毎月、季節に合わせた行事を開催。食事は、季節の料理、郷土料理、利用者様の嗜好を伺い献立に取り入れています。食事形態も一人ひとり食べやすい形態を工夫しながら提供し、楽しく食事が出来る様な工夫しています。ご家族様には、毎月写真とお手紙、藤の木だよりを郵送し、日頃の利用者様の様子が分かるようにしています。現在コロナウイルス流行の為外出は控えて頂いておりますが、リモート面会、窓越しの面会を行っております。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年10月26日	評価機関 評価決定日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

## 【事業所の理念】

利用者様・家族様の良き理解者となり、気持ちに寄り添った介護を目指します。利用者の自由意思を尊重し、のんびり、穏やかに笑顔のある家庭的な暮らしを提供します。

## 【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

ホームは、国道4号線から少し入ったのどかな田園風景が広がる一角に、社会福祉法人豊明会が2012年8月に開所した、木造平屋建て2ユニットである。利用者は四季折々の田園風景を楽しみながら、一人ひとりのペースに合わせた生活をしている。敷地内には同法人の障がい児多機能型事業所「きぼう」とグループホーム「のぞみ」があり、災害時等の協力体制や「きぼう」の子ども達と交流を行っている。母体法人は「いくつになっても、その人らしく、くらしのお手伝い」をモットーに、宮城県栗原市内で高齢者福祉、障がい者福祉、障がい児福祉事業を運営し、地域福祉の充実を目指している。

## 【事業所の優れている点・工夫点】

管理者と職員は理念を共有し、毎月の全体会議で目標を決めて理念が実践に活かせるよう取り組んでいる。利用者の残存能力を把握し、家事や庭仕事、花を生けるなど自宅で担っていた役割を事業所でも継続できるよう支援している。コロナ禍での面会は、窓越しやリモート方式を取入れて行っている。毎月郵送している「藤の木だより」は全面カラー印刷で、事業所内の行事や利用者それぞれの様子や表情がわかる写真を多く掲載し、家族から喜ばれている。運営推進会議は2ヶ月ごとに「身体拘束等の適正化のための対策委員会」も兼ねて開催している。コロナ感染予防対策を徹底し、事業所内で会議を開催しており、管理者からサービス提供状況などを報告し、委員から質問や意見交換が活発に行われている。民生委員から高齢者交流会などの情報や駐在所所長からは行方不明時の対応についてのアドバイスもあり、事業所の運営やケアに活かされている。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム藤の木
ユニット名	蔵王

**V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある
	<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまにある
	<input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	<input type="radio"/> 4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3. あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4. 全くいない
66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4. ほとんどいない



自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム藤の木）「ユニット名:蔵王」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念作り、事務所の目の届く所に提示し、職員同士で共有できるようにしている。	事業所の理念は、開所時に職員みんなの話し合いで決めたものである。毎月の全体会議で目標を決め、理念がケアに活かされているか振り返りを行っている。法人の経営理念と事業所の運営理念を事務室に掲示し、いつでも確認できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、新型コロナウイルスの流行に伴い、交流が困難ではあるが、地域の方の理容や歯科訪問等交流を行っている。	町内会には加入していないが、敬老会やお茶会などの地域行事のお誘いや回覧板も届く。コロナ禍以前には、避難訓練時に地域住民の参加もあり、歌や踊りなどのボランティアの来訪もあった。現在、利用者は感染症予防対策を徹底し、隣接する障がい児多機能施設「きぼう」の子ども達と一緒に、ハロウィンを楽しんだりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの流行により、認知症の理解や支援を地域の方々に話をむけるのはなかなか困難だが、運営推進会議の開催で伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は、5月、7月と感染対策のもと運営推進会議を実施している。ご意見はサービス向上に活かしている。	運営推進会議は各ユニットから家族代表、区長、民生委員、市職員、地域包括職員、駐在所所長、管理者が参加し、2ヶ月に1回開催し、同時に「身体拘束の適正化のための対策委員会」も開催している。管理者から利用者の状況や活動状況などを報告し、参加者と意見交換が活発に行われ運営やケアに活かされている。駐在所所長から、高齢者の事故や対策などのアドバイスがあった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	細目に市担当の方と連絡を取るようにし協力している。	運営推進会議に市職員が参加しており、事業所との連携が図られている。都度、介護保険制度などについて相談している。地域包括職員には困難事例などを相談している。市からはコロナに関する情報や研修会の案内があり、認知症の研修にはオンライン方式で参加した。また、連携を図りながら認知症サポーター養成講座を開催することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体状態の危険性からやむを得ず身体拘束を実施している。その方は身体の掻き壊しがある為身体拘束等の適正化の為の委員会を実施し、ご家族の了承を得て両手ミトンを着用し皮膚の掻き壊しの無いようにしている。定期的にカンファレンスを実施し、ご本人の状態、経過を記録し観察している。治癒し掻き壊す事が無くなり次第ミトンは外す予定である。	身体拘束廃止の適正化等のための指針を作成している。年2回内部研修を実施し、2ヶ月に1回、委員会を開催し、身体拘束を行わないケアに努めている。外出要望のある利用者には、職員と一緒に散歩などしている。日中は施錠せず、人感センサー（チャイム）をユニットの出入口に使用している。施錠は19:00から翌朝8:00までである。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の実施、内部研修の実施にて高齢者虐待防止について学び防止に努めている。	高齢者虐待防止法等について年2回内部研修を実施している。全体会議の中で、不適切な言葉遣いやケア中に気づいたことを話し合い、職員同士助け合うことで虐待防止に努めている。職員がいつでもユニットリーダーや管理者、法人の高齢者部門の管理者に相談できる体制が整えられている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修、外部研修、会議で身体拘束、虐待防止について学ぶ際、権利擁護についても学んでいる。現在県社協の守り一部を利用中の方がユニットに一人いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、理解出来たか確認作業を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営や、施設に関して意見があった際は早急に検討し結果を出しすぐさま反映させるよう努めている。	家族会はないが、運営推進会議に各ユニットの家族代表が出席しており、要望や意見を聞いている。面会時や電話の時も意見・要望を聞くように努めている。家族からの要望や意見は、全体会議の際に職員間で情報共有している。年1回、家族アンケートを実施し、集計したものを玄関に掲示している。毎月配布している「藤の木だより」が、利用者の様子が写真入りでわかりやすいと、家族から感謝のことばがあった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、会議の場で、意見や提案を言い反映させるよう努めている。	職員は、年2回パーソナルレポートを提出している。管理者はレポートを基に職員と面談し、自己目標を見直したりしている。毎月の全体会議やユニット会議でも職員から意見・要望を聞いている。リビングの照明が暗くケアがしづらいとの意見が出され、明るい照明に変えたことで改善に繋がった。休憩する場所がないとの意見に対して、現在使われていないリビングの和室を活用することにし、職場環境改善に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働いている職員の状況、状態を確認把握し皆が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働いている職員ひとり一人を把握しその人に合った働き方を実施している。また、定期的に研修を行っている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修への参加(リモートも含む)サービスの質を向上させるよう取り組んでいる。	同法人の他のグループホームとは、主に電話で相談や情報交換を行っている。法人で開催する会議には、オンライン方式で参加している。医療機関とも連携が図られ、緊急時や看取りのこと等相談しながら取り組んでいる。宮城県認知症グループホーム協議会に加入し情報を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を傾聴して安心して過ごして頂ける様な環境を作り、信頼関係が築ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っている事、困っている事を確認している。耳を傾ける事で良い関係作りに務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族にその都度必要な事を確認し支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	働いている職員は暮らしを共にする同士として良い関係を築くよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族とのかかわりの中で絆を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にしてきた馴染みの人、場所環境を尊重するようにしている。	コロナ禍で以前のように地域行事に参加ができない。家族との面会は、居室の窓越しやリモートで行っている。感染予防を徹底し、月に1回、幼馴染の家にお茶飲みに出かけられるよう支援をしたり、ユニット間を自由に行き来し隣のユニットに居る同級生へ会いに行けるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	活動の中で、ご利用者様同士の関係性を把握し皆が関わり合えるよう努めている。相性を考慮して座席を決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も他施設へ行っても状況確認、相談を受けるようにしている。また、本人を同法人の特養で、通院先で見かけた時は声を掛けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ひとり一人の希望、意向を確認しながら本人本位、本人らしさが出るような支援をしている。	利用者一人ひとりの思いに耳を傾け、家族から生活歴を聞くなど、どんな暮らしがしたいのか把握に努めている。家事や庭仕事、花を生けるなど、好きなことや得意なことを担ってもらっている。新聞を読む、病院の帰りにおやつを買う、白髪染めをするなど、利用者の希望に沿えるよう支援している。寝たきりの人には好きな音楽を聴いてもらったり、意向の把握が困難な人には表情や身振りから把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にこれまでの生活歴、習慣等聞き把握し支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとり、その人に合った生活に応じている。記録し現状把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度話し合う事と毎月のユニット会議で個々の状態を確認、支援方法を検討している。	介護計画は、利用者、家族の意見を基に短期、長期の目標を立て作成している。日常的に状態や要望を把握し、居室担当者がモニタリングを行い、ユニット会議やサービス担当者会議で計画の評価を行っている。6ヶ月毎に見直しを行い、体調の変化に応じて都度見直している。見直し後は家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録、引継ぎノートの活用で職員間の情報共有、話し合い、見直しを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全体会議、申し送りを確認、支援サービスについて検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの流行により地域の関わり、受け入れが困難な状況である。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族にかかりつけ医の確認を行っている。家族に通院をお願いしているが、移動、介助で困難な場合は施設で通院に対応している。	利用者、家族が希望するかかりつけ医を受診している。通院は、基本家族が付き添い、利用者の状態を文書で提供し適切な医療が受けられるよう支援している。また、家族の付き添いが困難な場合は職員が同行している。受診後は受診記録簿や日誌に記入し、薬などの申し送りはタブレットに入力して情報共有している。訪問歯科医は月1回、歯科衛生士は月2回来所し治療や口腔ケアの指導をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置により毎日の状況報告と協力医への相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院への紹介状、介護経過報告書等作成、提出し情報交換、連携を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、終末期の方が居るので家族、クリニックの往診と連携を取りながら情報共有しチームケアで支援している。	入居時に「看取り介護に関する指針」の説明を行い、要望を確認している。重度化した場合は再度話し合い、終末期には医師の判断で家族に説明を行っている。協力医療機関、看護師との24時間体制の基、職員は家族とも情報共有し、チームで終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に備えAEDの設置、職員研修で訓練を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人、管理者が中心となり事業所全体で連携体制を皆をし対応できるようにしている。	火災、風水害、地震マニュアルが作成されている。避難訓練は年2回、内1回は夜間想定で実施しているが、コロナ禍で消防署員、地域住民の参加はなかった。避難訓練時に業者が、消火器、火災報知器、スプリンクラーなどの設備点検を行っている。非常食などは1週間分備蓄している。コロナ感染症予防マニュアルを作成し、職員は定期的に抗原検査を実施している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員ひとり一人が利用者様の尊厳を考慮した声掛けを実施している。	接遇やプライバシーの研修を行い、職員は利用者の尊厳を考慮した声掛けを心がけている。呼び方は名前や苗字に「さん」付けを基本としているが、本人の希望でニックネームで呼んでいる人もいる。排泄介助や入浴介助では特にプライバシーに配慮している。居室に入室の際はノックと声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で利用者様が自己決定できる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとり自分のペースを大事にし本人の希望に沿って支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服の選択や、自分で身だしなみを整えて頂き、その人らしい身だしなみになるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で食器洗い、拭き取り、簡単な調理の手伝い等行っている。	献立は、法人の管理栄養士が作成したものを参考に各ユニットリーダーが作成し、職員が調理している。朝食のおかずのみ、業者に委託している。利用者は、食事の盛付けや食器ふきなど出来ることを一緒に行っている。食事の形態は、6段階(ムース、きざみ、とろみなど)で提供している。利用者は、小正月の飾りの水木の団子づくりや、郷土料理のはっと、ふすべ餅、みょうがの葉焼き、誕生日のケーキをみんなで作ったり、お茶会などを開いて楽しんでいる。水分量のチェックや、月1回体重測定も行い体調管理に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の管理栄養士に相談しながらひとりひとりの状況、食事形態に合わせた食事提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、定期的な歯科往診で清潔保持している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄表が有り、パターン習慣を各因子個々に合った支援を行っている。	一人ひとりの排泄ターンを把握し、誘導や声がけを行い、トイレでの排泄や自立を支援している。夜間だけ離床センサーを利用する人もいる。便秘対策として、水分補給や牛乳・乳製品、果物を取り入れるなど工夫し対応している。お腹に温シップを貼ったり、医師の処方薬や座薬を使用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を確認し便秘の日数を確認。下剤を内服される方もいる。水分を多めに提供したり、食物繊維の多い物を提供し便秘の予防改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態を確認後、入浴している。入浴を拒否される方はほぼいない。個々に合わせた入浴方法で支援している。	入浴は週3回が基本である。本人の希望に応じて時間や湯温などを調整し、気持ちよく入浴ができるよう支援している。車椅子の人にはリフト付シャワーキャリーで入浴を行っている。状態に合わせ足浴等で清潔保持に努めている。入浴をしたがらない人には無理強いせず、タイミングを見ながら声がけし浴室に誘導するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節、状況を考え寝具、湿度衣類を対応。安心して休んで頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	追加や変更の薬は記録、申し送りノートで把握している、。表を用いて常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の役割に繋がるような活動支援の中で楽しみを持って生活が出来るよう支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの流行で通院以外は外出を控えている状況。	例年は年間行事計画をたて、季節を楽しむ外出を車椅子の利用者と一緒に行っていたが、コロナ禍で外出の機会は減っている。お花見ドライブに出かけた時には、車から降りて記念写真を撮ったりした。コロナ禍前は家族と一緒に、通院時に外食を楽しむ人や墓参り一緒に出かけていた。感染予防を図りながら、職員が同行し墓参りに外出したりできるだけ希望に沿えるよう努めている。行きつけの美容院に行く利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルスの流行により、外出が困難な為、本人がお金を支払う場面は少ない。職員が代行し買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙、リモート、サッシ越し面会で家族とやり取りが出来るようにしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁面、利用者様の作品の展示、季節の花を飾り季節感を出している。	リビングのテーブルには利用者が育てた花が飾られている。壁には季節に合わせた飾りや利用者の手作り作品、行事の写真など貼られ、居心地の良い空間になっている。見やすい時計やカレンダーは見当識に配慮されている。温・湿度は職員が管理し、換気扇で換気を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置、ソファの配置等利用者様同士で過ごせる場所の工夫をしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人、家族と相談しながら使い慣れた物、馴染みの物を持参してもらっている。	居室にはベッド、エアコン、加湿器、クローゼット、ナースコールが備え付けてある。利用者は馴染みの家具やテレビなどを持ち込み、家族写真や手作り作品を飾り、居心地の良い部屋で過ごしている。温・湿度管理、掃除は日勤職員が行い、衣替えなどは担当職員が利用者と一緒に行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとり出来る事を活かし安全に自立した生活が出来るよう工夫し支援している。		